

前回の審議会（第 5 回審議会）で出された意見への対応について

（１）前回の審議会が出された意見（８項目）

No	前回の審議会（第 5 回審議会）で出された意見 ※議事録転記	審議会時の事務局回答 ※議事録転記	意見への対応内容
1	「施策 1－1 こどもまんなか社会の実現」について。こども家庭庁の示す“こどもまんなか社会”は、こどもの意見を聞いて施策に反映させることが重要だと私は考えているが、施策の方向性の中にそういった記載がない。そのため、「こどもまんなか社会の実現」を「こどもまんなかアクションの推進」といった表記にしたほうがイメージと合うと感じたがどうか。	一度持ち帰り、わかりやすい表現となるよう関係部局と検討したい。	回答：修正あり 修正前：こどもまんなか社会の実現 修正後：子育て環境づくりの推進 (資料 1 ページ 4 7)
2	「施策 1－1 こどもまんなか社会の実現」の「③子育てと仕事が両立できる環境の整備」の中にある“こども誰でも通園制度”は、就労の有無によらずに保育施設を利用できる制度のため、「①妊娠・出産から乳幼児期にわたる支援の充実」もしくは「②安心して子育てができる支援の拡充」の方が適切かと思うがどうか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正あり 内容：“こども誰でも通園制度”の記載を「②安心して子育てができる支援の拡充」に移動。 (資料 1 ページ 4 8)
3	「施策 1－2 学校教育の推進」の「①小学校・中学校教育等の充実」の中にある「保育所・幼稚園・認定こども園など就学前教育と小学校教育において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通理解し、幼児教育の充実に連携して取り組みます。」は、文部科学省が推進する「幼保小の架け橋プログラム」のことだと思うが、「幼保小の架け橋プログラムを推進します」といった表現の方が良いのではないか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正なし 理由：総合計画は可能な限り市民にわかりやすい表現としたいと考えており、ご意見を頂いた固有名詞を使った修正は行わないこととした。 (資料 1 ページ 5 0)

4	「施策１－２学校教育の推進」の「②教職員の育成と働き方改革」は「施策１－３教育環境の充実」の方が適切ではないか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正なし 理由：「②教職員の育成と働き方改革」の施策は、児童生徒と教師が学びに向き合う基本的な姿勢や「授業づくり」の取り組み方、学校教育の一環である部活動指導のあり方について示したものであるため「施策１－２学校教育の推進」として取り組みたい。 (資料１ ページ５０)
5	「施策１－２学校教育の推進」の「②教職員の育成と働き方改革」が重点戦略（☆表記）となっていない。児童生徒の支援をするために教職員の育成と働き方改革は重要だと思うがどうか。	教職員の採用や勤怠管理等は県教育委員会の所管となっていることから市単独の取組には限界があると伺っている。どこまで市として取り組むことができるのかを含めて関係部局に意見を伝えたい。	回答：修正なし 理由：重点戦略は令和７年度からの４年間で市が重点的に取り組む内容をまとめているものとなる。この項目は、県と連携しながら取り組みを進めていく面もあることから重点戦略とは紐づけず、前期基本計画の中で取り組みたい。 (資料１ ページ５０)
6	「施策１－２学校教育の推進」の成果指標が中学校３年生を対象としたアンケートとなっている。中学校３年生とすると対象者が毎年変わることになるが、成果指標として適していないのではないか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正なし 理由：義務教育過程の最終年度の学年であることや小中一貫教育の集大成となる学年であると位置づけていることから中学校３年生を対象としたい。 (資料１ ページ５０)

7	「施策１－３教育環境の充実」の「③児童生徒を大切にする教育の推進」は「施策１－２学校教育の推進」の方が適切ではないか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正なし 理由：「③児童生徒を大切にする教育の推進」は、いじめや不登校に対する相談・支援体制の充実やこどもの居場所づくり、衛生環境、健康診査など児童生徒を取り巻く教育環境に関わる内容を記載していることから「施策１－３教育環境の充実」として取り組みたい。 （資料１ ページ５２）
8	「施策１－３教育環境の充実」の成果指標に「小中学校のトイレの洋式化」があるが、目標として適していないのではないかと感じた。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：指標の修正なし、目標値の修正あり 修正前：小中学校のトイレの洋式化 65% 修正後：小中学校のトイレの洋式化率 70% 理由：コロナ禍以降、衛生環境の向上が求められ、災害避難場所としても活用されることから、年代を問わず学校の洋式トイレの整備を望む声が高まっており、国の整備方針でも「洋式化率 90%」を目標として示されている。そのため、学校再編整備や長寿命化改修整備と並行して、小中学校のトイレの洋式化率の向上に取り組むたい。 （資料１ ページ５２）

(2) 審議会後に委員から寄せられた意見（2項目）

No	寄せられた意見	事務局回答	意見への対応内容
1	「施策1－1 こどもまんなか社会の実現」の成果指標「市民アンケート調査で「子育てがしやすいか」との間に「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合」について、子育て中の人のみの回答なら信憑性があるが、無作為抽出のアンケートでこのような質問をしても、年齢の高い人は子育てがひと段落しているので、回答がポジティブに偏るのではないか。また、指標として市民アンケートを使うことが、そもそも適していないのではないか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正なし 理由：今回は、市民アンケートの調査結果の抽出対象を子育て世帯（20歳から49歳まで）に設定したいと考えており、指標として適していると考えていることから修正は行わない。なお、本成果指標については施策1－1から基本戦略へ移行している。 (資料1 ページ28)
2	「施策2－4 障がい福祉の充実」の成果指標「アンケート調査で「障がいがあることを原因として、差別や偏見、疎外感を感じたことがある」と答えた割合」について、重度心身障がい者の意見も聞いて含まれているのか。回答できない人もおり、指標として適していないのではないか。	一度持ち帰り、修正の有無も含めて関係部局と検討したい。	回答：修正あり 修正前：アンケート調査で「障がいがあることを原因として、差別や偏見、疎外感を感じたことがある」と答えた割合 修正後：委託相談支援事業者の相談受付件数 (資料1 ページ66)